

【①分析：地域社会のニーズを分析】

1-1 地域にはどんな人がいますか？	貧困世帯の子供たち
1-2 地域にはどんな問題がありますか？	相対的貧困などの格差や絶対的貧困による貧困の問題
1-3 誰が最も問題に直面していますか？	貧困世帯の人
1-4 その問題の真の原因は何ですか？	相談する場所、相談する機会が少ない 貧困による負の連鎖が断ち切れない

【②立案：持続可能な解決策の開発】 ※『原因』を取り除くには

2-1 誰がどう変わればよいですか？	周囲の人：貧困等への関心を持ち、相談にのれる体制、相談機関等の情報を与えて上げられるようになる 貧困世帯の親：負の連鎖を断ち切るように教育の機会を与える 貧困世帯の子：負の連鎖を断ち切るように学び、将来のビジョンを考える
2-2 どんな条件が必要ですか？	①現状の把握 ②情報収集 ③対応できる人の充実
2-3 誰が利益を得ますか？	貧困世帯を中心とした子どもたち

【課題となるテーマは？Next5は？】

①と②を元にあなたのグループのテーマは？	貧困世帯の負の連鎖を断ち切る
めざすNext5に当てはまる内容は？	相対的貧困の改善

中間報告会	発表は2分42秒でした	発表者	久松	日高ゆうみ	浦谷
浅野	背景、進捗率。目的、マネーリテラシー				
野村	こどもの貧困を調べたときに、差があったから記載した 背景があるなかで、何故調理体験？いろいろがつかない気がする。 調理体験をすれば明確にする。				
楳松	目的がどこに定められているのかをしっかりとる 目的を負の連鎖を断ち切るのであれば、...どうやったら職業体験と貧困が結びつか、 誰と一緒にやるのか、かわる人（プレーヤー）が抜けてる。				
川越	事業計画④どこがやるの？絵をかいてゴールを見定めるといと思う				

事業計画	就学援助という支援が存在するが、就学援助率が全国的には令和3年度のデータで14.28%であるのに対し、宮崎県は16.47%と全国平均よりも高くなっている。また、大人1人1世帯の貧困率は50%を超えているが、全国のひとと親世帯の割合が1.6%程度なのに対し、宮崎県では3.5%程度となっている。これらのことから子どもを持つ世帯では困難している様子がみえてくる。さらに生活保護世帯の数字ではあるが、子どもの進学率が一般世帯よりも低い傾向にあり、教育の機会が少なくとなり、負の連鎖を断ち切れないと懸念される。
実施に至る背景	※根拠をしっかりと記載する。
目的	労働体験、調理体験、食事を摂るという経験することで働く意味、目的を感じてもらい、生きていく力を身につけ、特に貧困世帯における負の連鎖を断ち切り、相対的貧困の改善を図る。
誰と一緒にできるか	子どもに関わる保育所、小学校などの教育機関 保健所や相談機関などの関係機関 子ども食堂を行っている団体・企業
実施できる時期	通年
どんなスケジュール間で準備が必要か	協力教育機関及び協力企業募集2ヶ月⇒参加する子供達及び親への周知1ヶ月⇒事業実施⇒協力企業への報告及び引継依頼
実施できる会場は	協力教育機関等
事業計画内容	【事業のねらい】 ①負の連鎖を断ち切るための支援として、親への経済的支援、子どもの学習支援はもちろんだが、子どもの就労支援も有効とされている。職業体験を通して、仕事の面白さや仕事をやる意義を感じてもらい、就労に対する意欲やビジョンをもってもらうことで就労支援の第1段階とする。 ②調理体験をすることで、食育の機会とし、一人でも食事を摂取できる力をつけてもらう機会とする。 ③本来であれば貧困世帯のみを対象としたことを想定しているが、対象を絞ることで参加者が貧困世帯とみられてしまうことや貧困世帯という認識のない対象者もいることでの参加者の減少などを防ぐため、参加対象を絞らず、保健師などに参加してもらい、アフターフォローが必要な対象者をリスト化し、相談窓口からのアフターフォローへと繋げていき、イベントとして終わらないようにする。 ④子ども食堂開催に対して意欲のある団体に対して事業報告を行い、その後の活動につなげてもらう。
目的を達成させるための手法	※出来るだけ詳細に記載する
【対象者】	早い段階でフォローアップに繋がっていただけることと事業内容を理解できるという年齢という点で小学校低学年（小1〜3）を対象とする。
【準備】	①場所の提供及び参加する子供達への周知等、協賛してくれる協力教育機関及び事業実施時に職業体験ブースを出してくれる企業の募集 ②保健所、各相談窓口への参加依頼 ③参加する子供たち及び親への周知をチラシ及び昨年地域課題解決委員会で使用したSNSにて実施。
【内容】	①職業体験を行ってもらい、体験スタンプを集めてもらう。職業体験に関しては1ブース20分程度の内容を2個は体験してもらおうとする。 ②調理体験をしてもらう。 ③調理した食事を食べてもらう。＊アレルギーについては配慮した食材を使用する。 ④協力団体への事業報告及びフォロー依頼
【事業スケジュール】	10:00～開会式 10:30～職場体験 11:30～調理体験 13:00～食事 14:00～閉会式

NEXT5	誰も取り残されな い地域の実現	労働生産性を向上させる 地域の実現	持続可能で安全な 地域の実現
	社会	経済	環境
地域	地産地消の推進	付加価値創造の推進	再生エネルギーの利用促進
	相対的貧困の改善	地域の魅力の発信と発信	資源のサステナブルな生産と消費
	多様性を尊重した教育の推進	イノベーションの促進	エコツーリズムの推進
	伝統の継承（宮崎の文化）	DXの推進	国土強靱化計画の推進
人財	健康意識の向上	ビジネスマッチング	持続可能な消費行動の啓発
	ニューノーマルへの適応	IT人財の育成	環境教育による環境保全促進
組織	ジェンダー平等の実現	会議の効率化	防災ネットワークの強化
	JCブランドの確立と認知度向上	企業・学校・団体との連携	環境経営の確立